

二〇二〇年度国文学会彙報

二〇二〇年十一月三日（金）、二六日（月）
Zoomによるオンラインでの開催

二〇二〇年度国文学会活動状況

△国文学会総会▽

・総会 二〇二〇年六月一日～七日に行われた常任委員会によるメールでの審議において審議事項が承認され、その決議をもって総会の決議とした。

△国文学会研究発表会・講演会▽

二〇二〇年二月六日（日）Zoomによるオンライン会場

・研究発表

上山珊瑚の足跡

——新劇／映画女優としての位置——

早稲田大学総合人文科学研究センター招聘研究員 佐藤未央子

Microsoft Teamsを使用した国語授業

——香川高等専門学校訪問キャンパスにおける実践例——

香川高等専門学校助教 森あかね

・講演 同志社大学文化学会共催

『聾瞽指帰』における中国故事の受容

△ゼミ相談会▽ 学生会主催

本学助教 柳川響

花田清輝・後期歴史小説研究
——非暴力主義の探求——

坂崎 恭平
加藤 大生

△国文学会会報▽

第四八号 二〇二一年三月二〇日発行

※新型コロナウイルスへの対応のため、例年行われている春の国文学会研究発表会、院生部会主催の講演会・国文合宿、学生会主催の新人生歓迎会・国文遊歩は中止。

二〇二〇年度博士論文題目

森鷗外の〈創作的批評〉

——大逆事件前後・〈国家〉と〈社会主義〉をめぐる対話篇——

二〇二〇年度修士論文題目

鎮源『大日本国法華経験記』表現・基盤・思想の研究

高山 卓

小林秀雄とカメラのリアリズム

——「戦争と平和」「死体写真或は死体について」論——

永田 恒右

女性名に冠する敬語接頭辞「御」の成立と背景

井上 夏姫

二〇二〇年度卒業論文題目

ヒルコとは何か

——蛭子説・日る子説の比較検討から——

吉岡 優

『古事記』スサノヲの捉え方

——イヅモタケル征討譚における構想——

小川 真由

——ホムチワケ物語との関連に注目して——

真弓 大芽

古事記上巻における神々の性別と性格の関係性について

杉本 雄大

記紀神話における禊の重要性についての考察

大森 ねね

「カギロヒ」を中心として考察する万葉集四八番歌

辻本 奈央

『万葉集』有間皇子自傷歌の卷二挽歌冒頭歌としての意義

——その物語性に注目して——

日比野 希歩

『万葉集』泣血哀慟歌群の表現について

西 有幸

万葉集一四一五番歌とその異伝一四一六番歌の比較

川路 あかり

『万葉集』卷十・二〇五一番歌の訓みと解釈

安賀 楓

「虹」の認識と三四一四歌の考察

木村 碧

上代七夕歌に見る中国七夕説話の受容と発展の形

——移り変わるあをによし

末摘花の変貌について

——『源氏物語』における「食」について

——食と人物の関わりを通して——

九曜文庫本『源氏小鏡』の特徴

——和歌と寄合の視点から——

伝三条西実隆筆本の字母

西行の桜歌に見える仏教的観念について

——八代集歌、釈教歌との比較を踏まえて——

杉本 日和

小田村 克哉

玉井 克哉

廣岡 七海

酒瀬川 なおみ

吉村 仁志

藤原定歌の評価と特徴

横山 知尋
布施 あかり

『建礼門院右京大夫集』論

奥井 涼帆

——右京大夫における追憶と自然——

『金槐和歌集』四〇三番歌からみる源実朝独自の表現方法

田中 宏奈

『小夜衣』における「はればれし」とその機能

釜丸 祥

『今昔物語集』卷二十六「利仁將軍若時從京敦賀

將行五位語第十七」の主題

満田 茉由果

『今昔物語集』「天竺亀人報恩語」考

釘丸 奈実

——恩を受け取る者と恩返しについて——

『宇治拾遺物語』における百鬼夜行の鬼の描写

——「修行者、百鬼夜行にあふ事」を中心に——

岡本 莉穂

『宇治拾遺物語』第八四話における「人々」の機能

——『富家語』一〇五との比較を基に—— 前田 真記

中世における語られる夢

——二人同夢を中心に—— 近藤 佳奈

『平家物語』覚一本の人物描写について

——戯画化の可能性——

平田 京香

覚一本『平家物語』における自害の描写

——武士の自害描写を中心に——

中島 加央里

覚一本『平家物語』「副將被斬」考

——宗盛の描写を手がかりに——

小野 美咲

覚一本『平家物語』「重衡生捕」

——乳母子の裏切りを巡って——

村田 遼奈

覚一本『平家物語』「敦盛最期」考

——覚一本と延慶本における敦盛の描かれ方の違い——

田中 稜太

能『頼政』を通じた人物描写の変遷

——『平家物語』から発する創造性について——

松田 耕明

謡曲「班女」における月の扇、夕顔の扇

——源氏物語「夕顔」「花宴」の扇贈受描写に注目して——

山内 悠也

勅撰和歌集における「朧月」「おぼろ」について

二十一代集の比較を用いて 幅崎 千瑳

源氏能の方法

——「葵上」「野宮」の場合——

鈴木 菜奈子

『犬百人一首』における食物を詠んだ和歌について

宮川 葵

『男色大鑑』の方法

——前半と後半の意図をめぐって——

土岐 美仁衣

『四季出題和歌』から見る、契沖の和歌について

林 美久

祇園南海「寒梅詩」について

川口 みなみ

『今様職人尽百人一首』に関する考察

伊坪 真衣

『鳥羽絵』の史料的价值

角田 もなみ

——「鳥羽絵欠び留」と「鳥羽絵三国志」から——

役者絵からみる江戸時代の歌舞伎演出や舞台装置

澁江 美紗

——ケレン演出に注目して——

藤棚の場から見る初代中村富十郎論

井関 優

——明和・安永期歌舞伎における影響——

歌舞伎の敵役について

船越 美佑

——江戸時代中後期の実悪と色悪——

山東京伝の黄表紙にみる石門心学の影響

——『心学早染草』を中心に——

山口 瑞葵

秋成の『五十番歌合』

池浦 周

衣装と役者から読み解く『青砥稿花紅彩画』

——時代に伴う変化と中国小説の影響——

川上 芽生

需要の観点から見る源為朝論

——『ヤマトタケル』から見る三代目猿之助の目指したスーパー歌舞伎

齋藤 雄一郎

『みだれ髪』における「琴」から見る与謝野晶子の表現

——早瀬主税が貫いた恩義の念——

梶井 桃花

泉鏡花「婦系図」

関 花瑛

——彼女たちは必要だったのか——

——『野分』における女性について

中島 はる

夏目漱石『彼岸過迄』を利用した自己愛と他者の関係に

森永 輪璃佳

——『羅生門』・『鼻』とその比較から見る倫理観と社会

須藤 ゆき

——『小僧の神様』考察——

大林 いずみ

森山 恵梨香

宮沢賢治の心象スケッチ

——「注文の多い料理店」を題材として——

杉田達哉

「銀河鉄道の夜」

——妹トシとその死に対して作品への影響——

Au Chun Hei Kennedy

宮沢賢治の童話における狐の表象について 西垣 諒

川端康成『青い海黒い海』における実親の欠如と

愛着への影響 栗原菜摘

江戸川乱歩「人でなしの恋」からみるピュグマリオン

コンプレックスの変遷 奥田日向

江戸川乱歩『パノラマ島奇譚』論

江戸川乱歩『パノラマ島奇譚』考察 佐々木 奈那

——ユートピア文学的視点から—— 竹本航大

夢野久作「コナツトの実」において

——エラ子から見た世界—— 森 優奈

夢野久作「木魂」論考

——「彼」自身への眼差し—— 小谷 真梨衣

梶井基次郎『ある崖上の感情』論

——「ある厳肅な感情」についての考察——

金山莉央

「桜の樹の下には」から見る梶井基次郎

谷崎潤一郎『吉野葛』における女性思慕と「ほんたう

らっく感」 田中紘徳

堀辰雄「燃ゆる頬」論

——「語り」を視座に—— 高谷秋葉

火野葦平と戦争

——『兵隊三部作』を中心に—— 辻 隆史

室生犀星『王朝』に見える女性像

——「景清伝」を中心に—— 柴田紘孝

中島敦『李陵』論

——武帝を軸として—— 伊藤吉康

太宰治「ダス・ゲマイネ」に描かれていること

水口夕子

太宰治『女生徒』論と『有明淑の日記』と比較して読む、

社会の中心としての男性と女学生の関係性

佐々木 晴香

「葉桜と魔笛」論

—— 戦争（国家）と形作られた「姉」——

高城 昌宏

太宰治『花火』論

—— 当時の支配的価値観の作品への影響——

中村 貴哉

太宰治『下カトントシ』における「ここにいない存在」

と虚無についての考察

桑木 陽彩

太宰治『ヴィヨンの妻』考察

—— 椿屋の役割について——

藤村 千咲

「人間失格」における「幸福」と「世間」についての考察

松本 哲徳

坂口安吾論 「墮落」とは何か

坂口安吾「私は海をだきしめてゐたい」における「ふるさと」

について

橋本 滯 伶

—— 「文学のふるさと」との関連性——

遠藤周作『海と毒薬』

—— 罪意識と海が存在——

中野 理沙

大江の「死」と「死者の奢り」

「兜率天の巡礼」の枠物語

鎌田 修 慈

—— 司馬にとっての「面白さ」——

宮本 想

「闖入者」を起点とした安部公房の思考の変遷

—— 「友達」への変化を中心に——

河野 真吾

「抑制された饒舌」がもたらすもの

—— 吉行淳之介「暗室」論——

黒川 正行

村上春樹『回転木馬のデッド・ヒート』論

—— 〈聞き書き〉という枠組みで描くこと——

岡田 萌伽

『輝く日の宮』の時間と小説家としての杉安佐子

友廣 幸

朝井リョウとジェンダー

—— 『どうしても生きてる』を中心に——

樋口 永和

現代における「想う」と「思う」の使い分け

人称代名詞考

—— 日本語における一人称・二人称代名詞の使用——

高岡 真生

副詞「まるで」の用法の歴史の変遷について

表現の形態からみる形容詞「やばい」の特異性

松尾 汐里

若者ことば「きゅんです」の流行について

早藤 柚花

村野 一巴

由井 慧空

現代語における食物に関するオノマトペの使用について

加瀬 梨乃

単純動詞・補助動詞・複合動詞におけるら抜き言葉の

岡本 理江

使用状況

渡邊 萌々華

部活動の敬語の実態

石川 昂

——上下関係とのかかわり——

——昭和期と平成期の比較を通じた考察——

太田 楓実

演歌の歌詞にみられる定型傾向について

上田 千裕

レトリックからみる「バナナの叩き売り」

杉本 和樹

子ども用玩具の商品名の特徴

——男女差及び年齢差から見る商品名の研究——

若松 幸佳

メディアにおける育児語

河合 楽美理

現代のフィクション作品を通して見る遊女ことばについて

奥田 さやか

ドラえもんの役割語

——漫画と映画の比較——

属性表現の破綻

——「臨時的言語表現」とその発現要因——

中川 怜奈

奈良県奈良市方言におけるザ行音・ダ行音の混同の実態

諸岡 みさき

奈良県方言地域による使用法の違い

なぜその言葉は今も使用するのか

現在の熊本方言における「来る」の敬語表現と使用状況

下出 葵

言語とするか方言とするか

——琉球諸島の言葉を巡って——

福島 吏基

高良 透矢